

第1回 履修案内・民法入門(1)－民法とは何か

2013/04/08

松岡 久和

【履修案内】

1 講義の進め方 レジюме→ <http://www.matsuoka.law.kyoto-u.ac.jp> および クラシス 掲載

2 勉強の仕方・講義の聴き方

3 教科書・参考書の説明

教科書

①民法入門・総則編

A/B 永田ほか『民法入門・総則 [第4版]』

→略号：E**頁

A 佐久間毅『民法の基礎1 総則 [第2版]』

→略号：佐**頁

②親族編

A 高橋ほか『民法7（親族相続）[第2版]』

→略号：高**頁

B 常岡史子編『はじめての家族法』

→略号：常**頁

判例集

A 松本恒雄＝潮見佳男編『判例プラクティス 民法I 総則・物権』→略号：P I**（番号）

松本恒雄＝潮見佳男編『判例プラクティス 民法III 親族・相続』→略号：P III**（番号）

4 試験と評価 昨年度実績と反省

5 法律学は何を学ぶのか

条文の意義と限界／解釈論と立法論／判例と学説／学問の体系性

[講義予定表]

1	4月	8日	履修案内・民法入門(1)－民法とは何か
2		12日	民法入門(2)－民法総則の位置
3		15日	能力(1)－権利能力・意思能力・行為能力
4		19日	能力(2)－行為能力の制限と補充（親権・扶養を含む）
5		22日	能力(3)ほか－行為能力制限違反の効力・失踪宣告など
6		26日	法律行為と意思表示
7	5月	2日	(振替授業日) 不完全な意思表示(1)－心裡留保・虚偽表示
8		8日	(振替授業日) 不完全な意思表示(2)－九四条二項類推適用論／錯誤(1)
9		10日	不完全な意思表示(3)－錯誤(2)
10		13日	不完全な意思表示(4)－詐欺・強迫
11		17日	法律行為の自由と制約(1)－強行法規違反・公序良俗違反
12		20日	法律行為の自由と制約(2)－消費者契約法・約款など
13		24日	無効と取消／条件と期限
14		27日	補論：ここまでの講義の補充＋α
15		31日	代理(1)－代理総説・有権代理
16	6月	3日	代理(2)－無権代理
17		7日	代理(3)－表見代理
18		10日	代理(4)－代理をめぐる諸問題
19		14日	法人(1)－法人総説・法人の内部関係
20		17日	法人(2)－法人の外部関係
21		21日	法人(3)－権利能力なき社団
22		24日	時効(1)－取得時効・消滅時効
23		28日	時効(2)－時効に共通の規律
24	7月	1日	時効(3)－時効に共通の規律（続）
25		5日	親族法(1)－総説
26		8日	親族法(2)－婚姻
27		12日	親族法(3)－離婚
28		19日	親族法(4)－親子
29		22日	補論：家族法部分の補充と特定のテーマに即した家族法特論
30		26日	家族法の補遺と私法の基本原則・民法再論

※あくまで一応の目安で、状況によって変更する場合があります。

【民法とは何か】 (E 1-17 頁・30-32 頁、佐 2-11 頁)

1 民法は市民生活全般にかかわる

- ・ Civil Law (英)、Droit civil (仏)、Bürgerliches Recht (独)
→市民相互の社会関係を規律する法(律)
- ・ 商品交換関係を中核とする社会関係+権利義務の主体とその再生産
→財貨・サービスの交換、財貨の帰属や主体の人格の保護、家族生活と相続

2 民法は、実体的権利義務関係を規律する一般的な国内私法である

2-1 民法は私法に属する

Case 1-1 Yは、自家用車を運転中、スピードを出しすぎて、歩行者Xをはね、重傷を負わせたほか、Xの連れていた犬を死なせた。Yについてどのような法律関係が成り立つか。Xは、どうすれば最終的に被った損害の賠償を受けることができるか。

[参照条文] 刑法 211 条・道路交通法 103 条・民法 709 条・自動車損害賠償保障法 3 条

- ・ 公法：憲法・行政法・刑法・税法 etc.
権力抑制・人権保障・適正手続 ←→ 自由・対等・平等

2-2 民法は一般私法(民事法)である

- ・ 「特別法は一般法に優先する」(法諺) ←①原則・例外、②考慮される状況
- ・ 特別法の例 (E 7 頁コラム③) 商法・借地借家法・労働法 etc.
- ・ 付属法：民法の規定の補充 **例** 不動産登記法・戸籍法 etc.

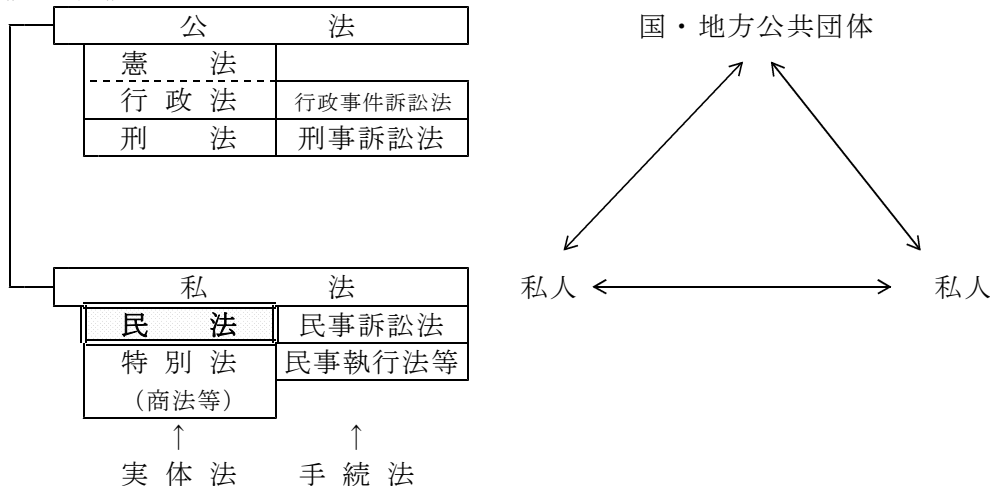
2-3 民法は実体法である

- ・ 手続法
 - └ 民事訴訟法：事実に対する法の適用手続
 - └ 民事執行法・破産法・会社更生法・民事再生法 etc.：権利実現手続

2-4 民法は国内法である

- ・ 国際私法(抵触法)：適用される法を決めるルール。具体的には「法適用通則法」。

《整理図》



3 民法の体系

3-1 民法と民法典

3-2 民法典の体系—すべての道はローマに通じる？

民法総則	第 1 編	1 条-174 条の 2	
財産法	第 2 編	物 権	175 条-398 条の 22
	第 3 編	債 権	399 条-724 条
家族法	第 4 編	親 族	725 条-881 条…………… 民法第 1 部に繰り込み
	第 5 編	相 続	882 条-1044 条…………… 民法第 3 部に繰り込み

- ・ **パンデクテン体系**（ドイツ型）←ローマ法の学説彙纂
- ←→ **インスティテューチオーネン体系**（フランス型）←ローマ法の法学提要
- ※世界の民法はどうなっているのか

3-3 財産法の概観

(1) 物権法：所有権を中核として、物に対する支配権を規定……民法第二部

- ・ 物権の具体的内容
 - 所有権**：物の全面的支配権
 - 用益物権**：他人の土地の利用権（地上権・永小作権・地役権）
物の使用価値だけを排他的に支配。
 - 担保物権**：債権回収を確実にする仕組み（抵当権・質権・留置権・先取特権）
物の交換価値だけを排他的に支配。優先的な債権回収を保障。
※用益物権・担保物権は**制限物権**と呼ばれる。
 - 異質なものとしての**占有制度**：事実的支配を暫定的に保護する制度

- ・ 物権の特徴
直接性・排他性・絶対性（対世効）・**物権法定主義**（175条）

(2) 債権法：他人に対して一定の行為（金銭支払い・物の引渡し・サービス提供・競業禁止 etc.）を求める権利を規定

- ・ 債権の4つの発生原因……民法第四部
 - ① **契約** 521条-696条
 - ② **事務管理** 697条-702条
 - ③ **不当利得** 703条-708条
 - ④ **不法行為** 709条-724条 } 法定債権関係
- ・ 債権が一般的に持つ効力 399条-520条－「債権総論」……民法第三部
- ・ 債権の特徴（契約から発生する債権を念頭に置いている）
間接性・排他性の欠如（債権者平等原則）・**相対性・契約自由**

※民法典を実際に眺めて**佐11頁**のような体系図を自分で描いてみて下さい。

最近の教科書・体系書類

【民法入門】

- 成田博『民法学習の基礎 [第2版]』(有斐閣、2005年)
米倉明『プレップ民法 [第4版]』(弘文堂、2005年)
池田真朗『スタートライン民法総論』(日本評論社、2006年)
潮見佳男『入門民法 (全)』(有斐閣、2007年)
加賀山茂『現代民法学習法入門』(信山社、2007年)
道垣内弘人『ゼミナール民法入門 [第4版]』(日本経済新聞出版社、2008年)
河上正二『民法学入門 民法総則講義・序論 [第2版]』(日本評論社、2009年)
松尾弘『民法の体系 市民法の基礎 [第5版]』(慶應義塾大学出版会、2010年)
潮見佳男＝中田邦博＝松岡久和編『18歳からはじめる民法』(法律文化社、2010年)
淡路剛久『入門からの民法 財産法』(有斐閣、2011年)
近江幸治『民法講義0 ゼロからの民法入門 教養としての民法』(成文堂、2012年)
山野目章夫＝横山美夏＝山下純司『ひとりで学ぶ民法 [第2版]』(有斐閣、2012年)

【民法総則】

- 加藤雅信『新民法大系Ⅰ 民法総則 [第2版]』(有斐閣、2005年)
潮見佳男『民法総則講義』(有斐閣、2005年)
副田隆重＝中舎寛樹＝山崎敏彦『新・民法学Ⅰ総則 [第2版]』(成文堂、2006年)
平野裕之『民法総則 [第2版]』(日本評論社、2006年)
河上正二『民法総則講義』(日本評論社、2007年)
椿寿夫『民法総則 [第2版]』(有斐閣、2007年)
大村敦志『基本民法Ⅰ 総則・物権総論 [第3版]』(有斐閣、2007年)
山田卓生＝河内宏＝安永正昭＝松久三四彦『民法Ⅰ 総則 [第3版補訂版]』(有斐閣、2007年)
奥田昌道＝安永正昭＝池田真朗編『法学講義民法Ⅰ 総則 [補訂版]』(悠々社、2008年)
川井健『民法概論1 民法総則 [第4版]』(有斐閣、2008年)
内田貴『民法Ⅰ 総則・物権総論』(東京大学出版会、2008年)
四宮和夫＝能見善久『民法総則 第8版』(弘文堂、2010年)
佐久間毅＝石田剛＝山下純司＝原田昌和『民法Ⅰ 総則』(有斐閣、2010年)
中舎寛樹『民法総則』(日本評論社、2010年)
山本敬三『民法講義Ⅰ 総則 [第3版]』(有斐閣、2011年)
近江幸治『民法講義Ⅰ 民法総則 [第6版補訂]』(成文堂、2012年)
野村豊弘『民法Ⅰ 序論・民法総則 [第3版]』(有斐閣、2013年)

【家族法 (親族法)】

- 内田貴『民法Ⅳ 親族・相続 [補訂版]』(東京大学出版会、2004年)
近江幸治『民法講義Ⅶ 親族法・相続法』(成文堂、2010年)
大村敦志『家族法 [第3版]』(有斐閣、2010年)
佐藤義彦＝伊藤昌司＝右近健男『民法Ⅴ 親族・相続』(有斐閣、2012年)
前田陽一＝本山敦＝浦野由紀子『民法Ⅵ 親族・相続 [第2版]』(有斐閣、2012年)
窪田充見『家族法 民法を学ぶ [第2版]』(有斐閣、2013年)

【その他参考書】

- 我妻栄＝有泉亨＝清水誠＝田山輝明編『我妻・有泉 コンメンタール民法 総則・物権・債権』(日本評論社、2005年)
大村敦志『民法読解 総則編』(有斐閣、2009年)
松岡久和＝中田邦博編『学習コンメンタール 民法Ⅱ 親族・相続』(日本評論社、2009年)
松岡久和＝中田邦博編『新・コンメンタール民法 (財産法)』(日本評論社、2012年)